京都の中世社会を解明する

- 平成 25 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報から-

1. 中世のムラ・館-京都・北から南から-

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

総括主査 伊野近富 P1~P10

2. 中世 やかたの暮らしぶり - 向日市上植野城跡の調査から -

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター

主 任 中塚 良氏P11~P24

3. 『第29回小さな展覧会』のみどころ

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

調查員 加藤雅士

日時:平成26年8月23日(土) 午後1時30分~4時00分

場所:向日市民会館 4階 第1会議室

主催:京都府教育委員会

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

後援:向日市教育委員会

中世のムラ・館

- 京都・北から南から-

公益財団法人京都府埋蔵 文化財調査研究センター 総括主査 伊野近富

1. はじめに

鎌倉・室町時代の土器や陶磁器に注目してみると、都市とムラ(村)では、それぞれで 使用された種類に大きな違いがあったことがわかっています。

今回の発表は、京都府内の中世遺跡で出土する土器や陶磁器から、丹後、丹波、山城の 3国の地域的特色を明らかにし、搬入された経過や出土することの意味について考えたい と思います。

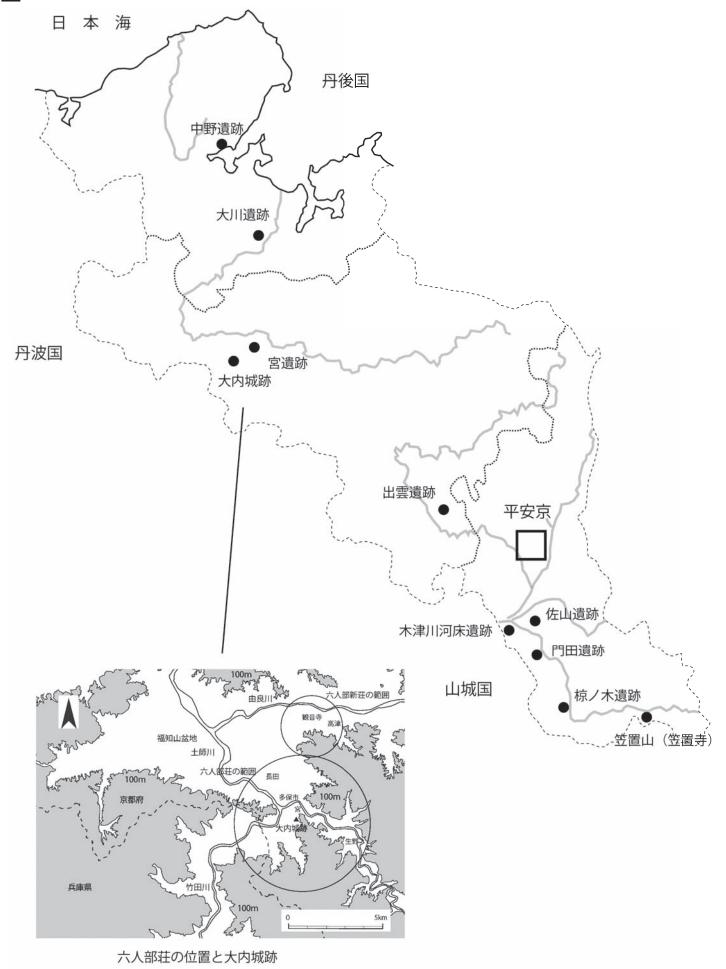
2. 各地の特色

(1) 平安京域

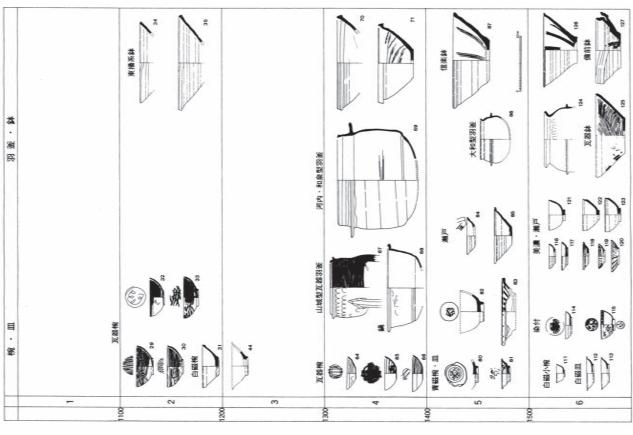
京都は、平安京遷都後日本の首都として栄えた大都市であり、最大の消費地でした。人々は平安京、あるいは中世京都に集中し、それを支えるための物資が集まります。集まった物資は全国各地や荘園からの収入、あるいは販売目的の流通品として、搬入されました。

人々の生活を支えるための器である土器や陶磁器の内訳をみてみると、供膳具としては近隣地域で焼成された土師器皿が主体で、少量ではありますが瓦器椀があります。調理具としては瓦質の鍋・羽釜、須恵器鉢があり、山城や摂津・河内、まれに大和地域から羽釜、東播磨から鉢が持ち込まれました。また、貯蔵具として東播磨産須恵器甕、常滑甕・壺があります。これに、ぜいたくな品として中国製白磁椀・皿・壺、青磁椀・皿・壺、青白磁合子・小壺・壺、中国製褐釉壺・盤、緑釉盤などがあります。

このように、平安京遷都後から中世の京都は全国各地、さらには海外から多量の土器・陶磁器が搬入されていました。また、土師器皿は京都特有の手づくね成形のもので、幡枝、深草、嵯峨野などの洛外にあった土器生産地から供給されていました。そのほかのものは各地で生産され、一大消費地である京都のほか、広い範囲に流通しました。広域流通品の出土、このことは都市的様相を帯びているといえましょう。



第1図 京都府内の主要な中世遺跡分布図



w _____ ## P 治外横破型一岛 1 小田垣内遺跡 在地 瓦路かなえ #)° 無米 大和型模倣型 内里八丁灣郡S E 10) وًّ وَ j **治女養食糧し** 治今重復型Gb 治今重復型J 中心・八輪 三個月本子院SK03 治文権役割日 洛外輔做型A أ أ 1 ١ OE F ロセトレ集役割 治文集役割Gョー1 大型機械を受験を (お手塩) 洛外模倣型 1a・1b 作作目 治文書後替々 国田 1 N E PP 1)= 1 888 ٥ 9

第2図 南山城の土器・陶磁器編年図

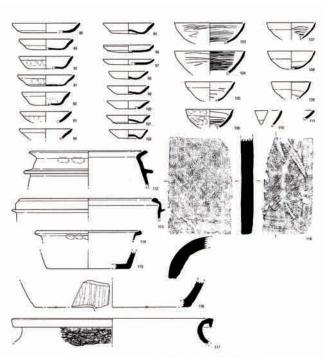
京都市内の中世遺跡を発掘調査すると、多量の土師器皿が一度に捨てられた状況を示す遺構がたびたびみつかります。破損していないものを含む多量の土師器皿が穴や斜面などに捨てられている状況をみると、単に日常生活のなかで廃棄されたものではなく、多くの人々が集まる宴会や儀式に使用されたあと、捨てられたと考えられます。

さて、多量の土師器皿の中に、まれに回転台土師器杯や土師器椀と京都から離れた地域でしか流通しない、いわば非広域流通品が1調査地点から数点出土することがあります。これは、米や魚・塩などを買納した際に搬入されたのではないかとの見解があります。また、市などの商業地で出土することもあり、商業的流通の容器として使用された場合もあったと考えられています。

(2) 山城国

ここでは特に平安京が所在する北山城を除き南山城に限定して説明します。

この地域の土師器皿は弧状の底部であるものが多く、平安京域の土師器皿とはその特徴が異なっています。また、平安京域とは違い瓦器椀が多量に出土します。13世紀の京田辺市門田遺跡では楠葉型とよばれる大阪府枚方市周辺で生産された瓦器椀が多く出土しますが、精華町椋ノ木遺跡では奈良市周辺で生産された大和型と呼ばれた瓦器椀で占められています。調理具や貯蔵具は平安京や中世の京都と同じです。ぜいたくな品々も出土量は格段に少なくなりますが平安京~中世京都と同じです。



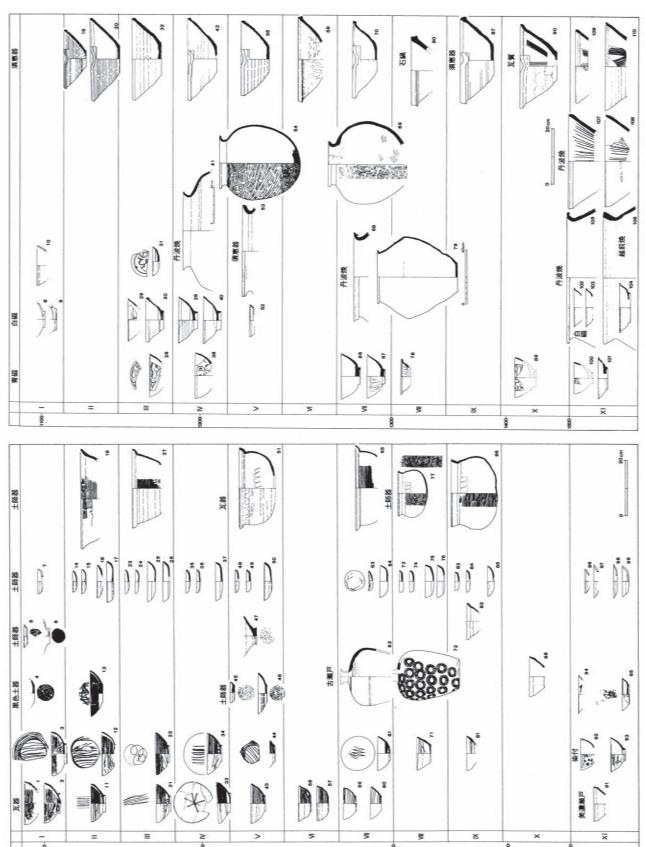
土師器皿:京都(洛中)模倣

瓦器椀:大和型

瓦器鍋:京都(洛中)模倣

土師器釜:大和型

第3図 中世前期末~後期初頭の土器実測図(椋ノ木遺跡)



第4図 丹波の土器・陶磁器編年図

近年の、木津川河床遺跡の遺物分析の結果、圧倒的に多いのは土師器皿であり、それ以外に①中国製白磁·青磁、②中国製褐釉陶器、③東播系(東播磨)須恵器鉢、④東播系(東播磨)須恵器椀、⑤回転台土師器、⑥土師器椀、⑦瀬戸内甕、⑧山茶碗、⑨東海鉢、⑩常滑甕・壺、⑪石鍋、⑫九州瓦器椀の12種類の遺物があります。⑤~⑦は瀬戸内海沿岸で、⑧~⑩は現在の愛知県から岐阜県あたりで、⑪⑫は九州で生産されたものです。

新田和央の研究をもとに南山城地域の39遺跡を検討すると8種類以上出土している遺跡は八幡市木津川河床遺跡、久御山町佐山遺跡、精華町椋ノ木遺跡の3遺跡で、佐山遺跡は三川につながる巨椋池に隣接しており、船着場につながると考えられる濠がみつかっています。椋ノ木遺跡は、木津川の津であったと考えられる遺跡です。

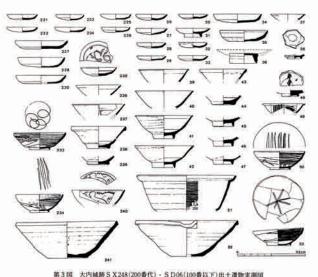
次いで4~7種類出土するのは9遺跡あります。笠置町**笠置山(笠置寺)**や木津川市光明山寺、八幡市石清水八幡宮境内といった寺社、八幡市上津屋遺跡、京田辺市薪遺跡などのような領主居館と推定される遺跡があります。

3種類以下の遺跡は他の地域と密接につながっていたとはいえません。

(3) 丹波国

丹波国は平安京域から山ひとつ隔てた南丹波地域と、由良川を介して日本海に通じる北 丹波地域の2地域に分けることができます。

供膳具は地元で生産された手づくねと回転台の2種類の土師器皿がありますが、土師器皿に加えて丹波型瓦器椀が主体になります。調理具として丹波や播磨に分布する土師器鍋、丹波の瓦器鍋・羽釜、東播磨産須恵器鉢、そして貯蔵具として東播磨産須恵器甕、常



第3 図 大内城除S X248(200番代)・S D06(100番以下)出土道物実測図 28・29・31・34〜36・221〜228・230、土師器皿 26・27・30・32. 瓦器匣 50・53・233・234. 瓦器帳 37. 青白磁杯 38〜47・236〜239. 白磁腕 48・49・240. 青磁碗 235. 白磁皿 51. 土師器鍋

52 - 241. 須恵製鉢

土師器皿:京都(洛中)模倣

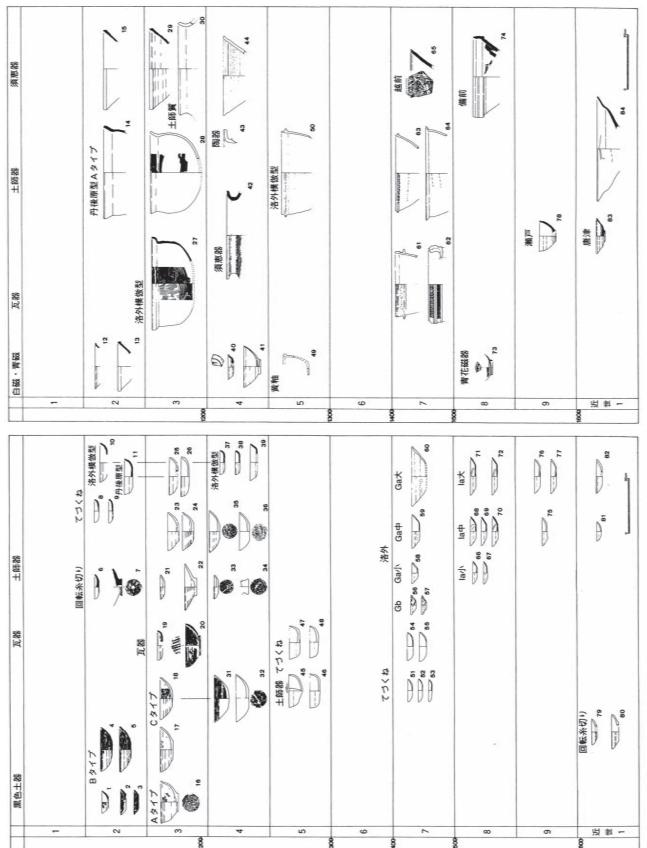
土師器鍋:京都(洛中)模倣

瓦器椀:丹波型

須恵器鉢:東播磨産

青磁椀・青白磁杯:中国南部産

第5図 平安時代末期の土器実測図 (大内城跡)



第6図 丹後の土器・陶磁器編年図

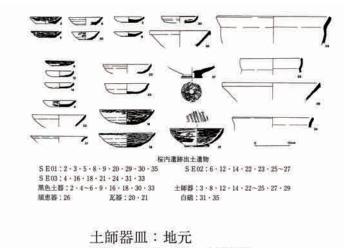
滑甕・壺があります。ぜいたくな品としては中国製白磁椀・皿・壺、青磁椀・皿・壺などがあり、少量ですが青白磁合子・小壺・壺や中国製褐釉壺・盤、緑釉盤などもあります。

丹波地域で土器の様相を知る上で重要な遺跡として、福知山市の大内城跡と宮遺跡があります。大内城跡は六人部荘にあり、台地上に100m四方の方形の堀をめぐらせた館跡で、平頼盛が荘園領主であったと推定されています。この遺跡からは平安京域の土師器皿を模倣した皿が多量に出土したほか、中国製白磁椀・皿、青磁椀・皿、青白磁合子・小壺、中国製褐釉壺が出土しました。同じ六人部荘内の宮遺跡では地元の回転台土師器を主体としており、一部しか京都模倣の土師器皿がありません。

(4) 丹後国

丹後国の北端は日本海に面しています。東北部の舞鶴市と宮津市との境を近畿北部最大の河川である由良川が流れています。この川は丹波国内から流れ出ており、支流である竹田川を遡り、低い峠を越えれば加古川に至り、瀬戸内海に通じています。陸路は中世の京都に通じており、直接いろいろなものが丹後国に運ばれました。

土器や陶磁器の内訳をみてみると、供膳具として地元で生産された手づくねと回転台の 2種類の土師器皿があります。椀は丹後型の黒色土器です。丹後国東南端の舞鶴市では丹 波型瓦器椀が少量あります。調理具として地元の土師器鍋・羽釜、東播磨産須恵器鉢。貯 蔵具として東播磨産須恵器甕、常滑甕・壺があります。これに、ぜいたくな品として中国 製白磁椀・皿・壺、青磁椀・皿、青白磁合子・小壺・壺、中国製褐釉壺・盤、緑釉盤など



黒色土器皿・椀:丹後型

須恵器鉢:東播磨産 瓦器皿·椀:丹波型 白磁椀:中国南部

第7図 平安時代末期の土器実測図



土師器皿:京都(洛中)模倣

陶器鉢:越前

青花磁器:中国景徳鎮

第8図 戦国時代の土器実測図



第9図 東アジアと日本の航路(市村高男「中世の航路と港湾」 (『日本の対外関係4和冦と「日本国王」』吉川弘文館)から一部加筆転載)

10

が少量出土しています。

中世の丹後国の特徴をあらわす遺跡として舞鶴市の大川遺跡があります。由良川の河口から約8km遡った自然堤防上にある遺跡です。ここでは山城国の解説で指摘した遺物のうち①~⑤、⑧~⑪の8種類が出土しています。中国製陶磁器・高麗青磁や朝鮮王朝の青磁・白磁も含めて150点以上出土しており、この遺跡は他地域と関係があったと考えられます。

室町時代に丹後守護所が置かれた場所に近い宮津市中野遺跡では中国製陶磁器が450点以上出土しています。このあたりは府中とも呼ばれ国分寺もあり、丹後国の政治や経済の中心地であったところです。他の遺跡では中国製陶磁器は数点~数十点程度ですので、出土量からも中心地であったことがわかります。なお、大川遺跡はこれに次ぐ出土量です。

4. おわりに

中世のムラ(村)や館を土器や陶磁器からみてみると、京都特有である手づくね成形の 土師器皿の使用方法に違いがあることがわかりました。館のような地域の中心地では京都 模倣の皿を使用した宴会がおこなわれたと考えられます。

それぞれの地域で地元の土器を中心に近隣の製品を使用していたことがわかりました。 また、出土する種類が多い遺跡ほど流通の中心地であったり、館であったこともわかりま した。

〈参考文献〉

新田和央「木津川河床遺跡と京都・南山城の流通」(『中近世土器の基礎研究』25日本中世土器研究会) 2013

中井淳史『日本中世土師器の研究』中央公論美術出版 2011

吉田 元『日本の食と酒』講談社学術文庫 2014

中世 やかたの暮らしぶり

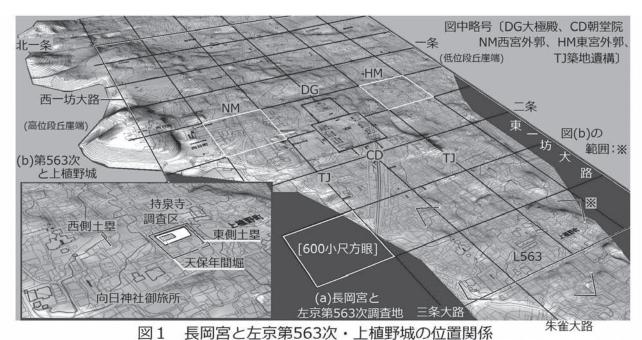
- 向日市上植野城跡の調査から -

公益財団法人 向日市埋蔵文化財センター 主任 中塚 良

[1] 遺跡・調査地の位置と景観 (図1・2・11)

[あらまし] 京都盆地北部西縁、長岡宮の南端台地(図1)において2013年夏季・2014年春季に、a:朱雀大路・三条大路に面する区域の古代的利用の解明、b:中世集落・城郭利用の確認を目的に調査を実施しました。長岡京跡左京第563次・詳細分布調査第13128次(向日市上植野町北小路)です。

aでは調査区全域にわたる長岡京時代の地ならし(整地土)・礎石建物基礎の一部



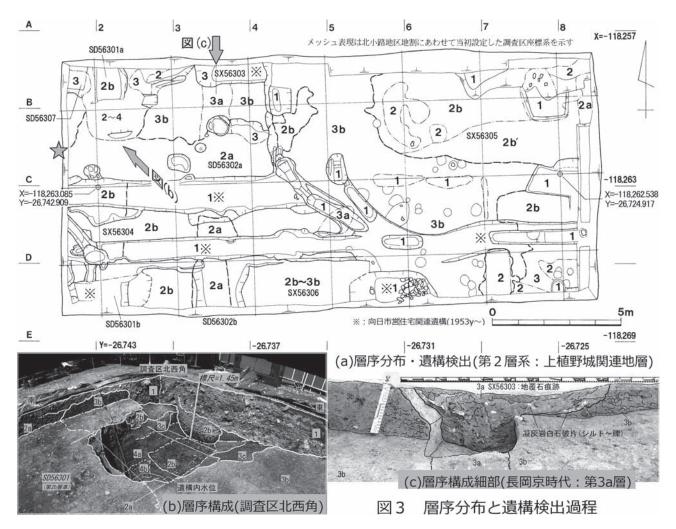


(壇上積み基壇跡)の宮城関連遺構を、bでは戦国時代城郭西端の防御施設(堀・虎口想定遺構)・生産関連施設を確認できました。ここでは中世以降の成果bについて、遺構・出土試資料の成果にわけて図説、図解します。

[位置・景観]「長岡」南端、長岡宮に難波宮の物差し600尺のます目を被せて調査地の位置を確認します。段丘の中央、大極殿院・朝堂院の真南に都の軸線である朱雀大路が延びます。段丘南端を通過する三条大路と朱雀大路に面する区域中央付近に今回調査地があります(図1)。パノラマ写真で周辺の景色を確認します(図2)。画面左手、繁みのたもとの高まりが1922年の地形図にしるされる土塁状の地形の名残です。調査地右奥、持泉寺所蔵の天保4(1833)年『持泉庵境内絵図水帳』には、寺の南に方形の堀が示され、土塁・堀をあわせ応仁二(1468年『野田泰忠軍忠状』登場の上野秋田氏が営んだとみられる上植野城に関わる施設とかねてから考えられてきました。絵図によると今回調査地は堀の北西角近くに当たります。

[2] 発掘調査のながれ ~遺跡の地層の構成とひろがりを調べる~(図3)

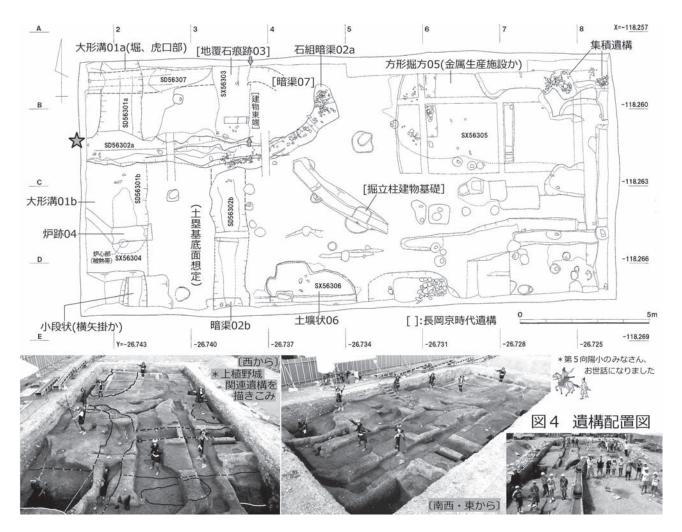
調査は遺跡の地層の構成・成り立ちと広がりの組み合わせをもとに進めます。試掘結果 と壁沿いのトレンチ掘り(排水と成層状態の観察をかねる溝)にもとづき地層の平面分布 図を作成し、調査に流れをつくります。計画を練るため調査区角に設けた穴で遺跡は大き く分けて4つの地層でできていることが判りました(図3-b)。1953年建設~今回調査 前解体の市営住宅に関わる地層(第1層)の下に中近世の盛土・埋土(第2層)、長岡京 時代の整地土・遺構埋土 (第3層、図3-c:地覆石痕跡関連第3a層)、高台の地層 (第 4層:断層運動で隆起・離水した氷河時代の河川由来の堆積物)の各層を確認しました。 西・東2区に分けて精査を進めます。調査区西端北・南角の最初の試掘で第2層が厚 く、深い凹みを埋めること、試掘坑を結んで埋土(第2-b層)が帯状に延びること、16 世紀前半を下限年代(最新型式年代)とする土器類が含まれていたことから、大形の溝、 つまり城の堀に関わる遺構が確認できたと直観できました。ただし北西角で遺構断面は深 い椀形であるのに南西は東側の肩口しか見えません。地層が調査区外に向け、ひろがりま す(図3-aの星印位置)。大形溝のすぐ東側には、似た土質で溝に併行する、また東西 に直交する層の帯が確認できました。後に、東西の帯(第2a層、近世)の下層では重な るように大形溝の地層に切られる溝を確認します。第2b層が大形溝の埋め立て前・後に またがる層位にあたることが判りました。東区には北東に隅円長方形の輪郭をなす第2層 系の広がりがあります。これに接する北壁トレンチでは横縞模様につき固めた長岡京時代 の厚い盛土(地形:地業)が確認されました。他方、 東壁では第2層が厚く、深い掘り



込みを伴う城郭時代の遺構の存在が予測されました。北東角では上部に粉砕された風化花こう岩片を含む土がひろがります。一方、調査区南東には同じ層位の柱穴が群をなします。 中世びと達のくらしの場と想像されます。

[3] 遺構のあらまし ~いくさと普段のくらしのカタチ~ (図4、図5 a・b、図6) 中近世、上植野城跡関連遺構の確認結果を遺構の性格別に図説します。

[戦い・守りの施設] 調査区西端の大形溝 01、溝 01と直交する溝 02 a、併行の溝 02 bがあります。大形溝 01 は狭い部分(01 a:幅 2.2m、深さ G.L - 2.0m)と掘り込みが東肩のみ確認された 01 b からなります。飛び越えるのに躊躇する、底から這いあがるのに苦労するかたちと規模の遺構です(図 5 - a)。なお 01 b では溝底までの法面に小段を設けています。構成層は北部が砂利がちにざっくり埋めるのに対し、南端がこなごなの土器片を多量に含むこなれた印象の古土です。14世紀前半以降の資料が目立ちますが 16世紀前半までの土 節器を微量含んでいます。戦国時代前期埋め立ての城の堀と考えられます。天保年間絵図西堀の東側に位置する未知の遺構です。溝 02 a は石組を伴う埋め立て溝(音楽)



です。堀端から真東に延び、北東向きに弧を描き浅く円く途切れます。溝 01 との取り付き部分における層序は、両者が併存する段階(溝 02 a から 01への直接排水)と、溝 01 埋め立て面に西向きに暗渠を延ばす段階の、堀の機能時・廃絶後にわたる遺構の継続的な構築状況を示唆します。溝 02 b は 02 a 同様暗渠排水的機能をもつとみられる深く掘られた遺構です。以上、調査区西部の遺構の形・組み合わせから城の戦い・守りのしかけについて図解を試みます(図 5 - a)。堀の埋め立てには南北暗渠直上の土塁構成層が再利用されたのでは、と想像を重ねて描き込みました。

【生産・生業施設】大形溝 01 b 埋土の上部に炭質層で構築され、部分的に被熱をともなう たまま 04 (南西区)、焼土・被熱帯・金属製品 (鉄製釘類) をともなう方形掘方 05 (北東区) があります。後者は深い箱形断面をもち一部の底~法面に礫を敷き東端に南東向きに排水溝を布設します。炭や礫床は火処を乾かす仕組みと推察されます。

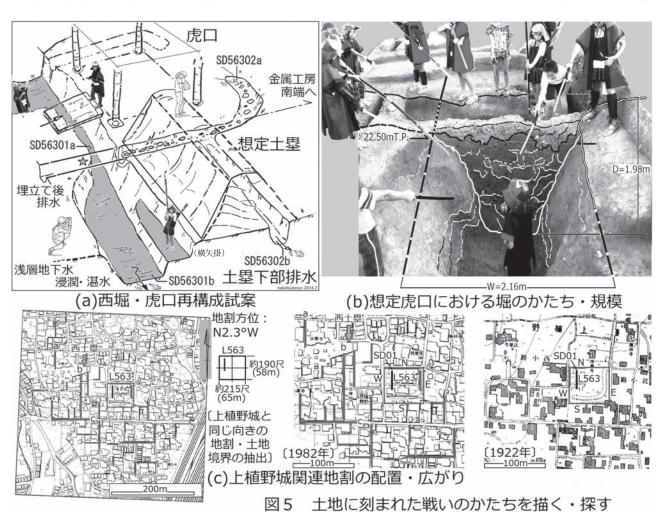
遺構の役目・年代を知るために試料を採取し自然科学分析(AMS法放射性炭素年代測定・金属学的分析)を実施しました(図6)。特に、炉跡04の暦年代は城堀埋めたて後の土地利用の再開を示すものとして重要です。

[4] 土地に刻まれた戦い・守りのかたちをさがす(図3-a・図5-c)

上植野城関連遺構の仔細が発掘調査によって初めて見えてきましたが、城の地割に関わるルールが他に土地に刻まれているか、歴史地理学的な方法で周辺地域に視野を広げてみましょう。戦国時代の戦い・守りのために整備されたであろう城地割痕跡の抽出にあたります。

ここで一旦、遺構検出過程図(図3 - a)に立ち戻ります。右上に小さく北小路地区地割と書き込みますが、北で僅かに西に振れ(N 2.3 W)をしめす、調査終了まで遺構の作図に利用した敷地輪郭(堀跡の地形)にあわせる方眼に当たります。上植野城地割の抽出の方法は①:地形図を時計回りにわずかに回転させて城地割に関わる調査地を取り巻く街区に直角座標を与え、②:①と図上で平行関係にありそうな土地境界線を探していきます(図5 - c:太線記入)。

城の規模は土地割に残された1922年地形図の土塁を図学的に1982年都市計画図に重ね描きし天保古地図の堀をバランスであてはめ東西215尺(65m)・南北190尺(58m)の 方格と予察します。次に方格ラインをパソコンのディスプレイ画面上で引き摺って、同様



の規模の地割が周辺地域にあるか否か探してみました。東西距離(W-E)に見合うラインとして法華寺西道(a)・向日神社御旅所西道(b)が見出せます。 b のやや東が近年まで遺存したとされる「東土塁」位置です。また御旅所北西角に方格の角を合わせて中筋通(上植野区の東西主要路、長岡京三条大路の遺存地割と推測)を南辺とする同規模の方格割が見い出せます。ちなみに北の持泉寺境内地は形が歪ですが同様の規模と考えられます。当時のやかた人たちの心の拠り所、向日神社の斜行地割との比較も試みます。向日社周辺の地割の振れ方と上植野域地割のそれが似ています。上植野旧集落は街路が入り組む複雑なパターンをなす印象ですが、発掘成果と遺存地割を端緒にして、上植野城地割の形が古代以来重ね描き続けられた景観の中に少しづつ見えてきたように思います。

[5] 上植野城跡の試料・資料が語る中世やかたのくらしぶり(図 $6\sim10$)

今回『第29回小さな展覧会』会場に調査成果の一部が展示されています。これに先立ち向日市文化資料館ラウンジで調査研究成果展として試・資料を展示し研究発表する機会がありました。発表成果の一部を図説し、上植野秋田やかたの暮らしぶりをたどってみましょう。あわせて課題を整理します。

【遺跡おもちかえり~自然科学分析試料が語るやかたの歴史~】(図6)生活・生産関連遺構 2基、炉跡 04・方形掘方 05を先に紹介しました。前者は城堀の埋め立て面につくられた火処と推定しました。切り取り試料の詳細から、土と炭の敷き詰め方が窺えます。さて、堀は一息に埋め立てられた様子でしたが、それは一体いつのことでしょう。応仁年間登場の秋田氏の活動を知る上で重要な課題です。堀埋土の土器型式学的年代は 14世紀前半主体~16世紀前葉>中葉で酸(最新年代)を示します。埋め立て面の火処に伴うタケ炭の放射性炭素年代は西暦 1448-1521較正幹を示しました。中心年代は 15世紀後半ですが、考古年代と付き合せて 16世紀前葉~中葉あたりと悩ましいところですが矛盾はしません。一方、土器年代の指標にとぼしい方形掘方 05は焼土にからむ炭が 1437-1452較正年を示し、堀埋め立て以前における火処での活動が示唆されます。釘類の鍛造の仔細を分析調査しましたが、今のところ鍛えた時発生する鉄片(鍛造剥片)が認められません。焼土の存在とあわせ、火事(15世紀中頃?)の始末材が遺構の構築に利用されたと見ることもできます。なお、同様の焼土が暗渠溝SD 02 b 埋土に確認されます。城のしくみ図解案にもとづき焼土を鍵試料とみれば、堀・土塁の構築は応仁乱時代直前のこの頃かもしれません。

[土器製作・利用・廃棄の年代、仕組みを調べる ~考古学の科学と情念のはざま~] (図7) 食べて飲んで壊して大量始末の中世土師器。ノートをとりつつ土器研究の大家の方々と 資料調査会をもちます。物集女城内郭の地ならし層の資料と比べます。削ると火花の飛ぶくらい超硬質の焼締陶器類。小形の破片資料が目立つのですが偶然壊れて小さくなったと考えるのはむつかしい印象です。器にたましいの宿る時代、使い終わりにたましいとお別れするマナーのカタチではないでしょうか。

[土器たちの出身地 ~焼締陶器の材質が魅せる窯元の自然資源利用~](図8)火花飛ぶほど硬い焼締陶器ですが、焼ムラで火の通りの良くなかった部分を観察して、溶けずにもとのカタチを留める鉱物や岩石の破片を探します。西から順に備前・魚住・信楽・常滑、それぞれの窯場の地質条件を練り土から垣間みることができます。あわせて土器のつくり方について観察します。土器製作過程を知る材質考古学的な世界です。

[中世クッキング図説 ~食文化景観考古学へ~] (図9) 鍋・火鉢、瀬戸物・中国大陸産 できる ない はどのように使われていたのでしょうか。詳しく描きこまれた中世のまか ない 絵図が食生活についての想像を後押ししてくれます。科学標本的に土器資料を分類・配列して研究、展示するのがわたしたちのマナーですが、中世食の景観図を参考に出土品 に命を吹き込むプレゼンをしてみたいです。

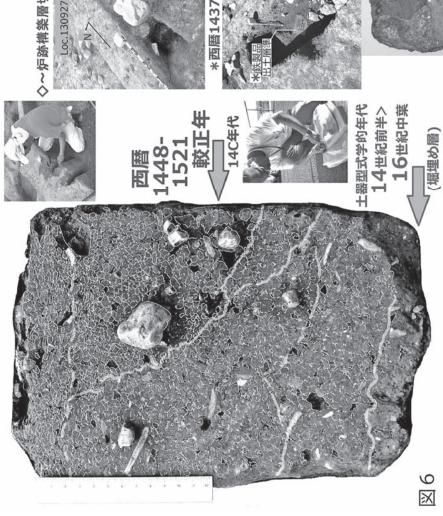
[そして、上植野城アフター](図10)しろやかたの時代を終えた持泉寺境内地。代見人形達は今回の想定虎口位置近くに絵図に描かれる祠の記憶と考えます。信楽印の型作り施釉土師質土器は目下類例を知りません。出自・資料的性格について御高配のほど皆様よろしくお願いします。

〔6〕おわりに 〜掘る地理屋の京都中世社会図説ことはじめ〜(図 11)

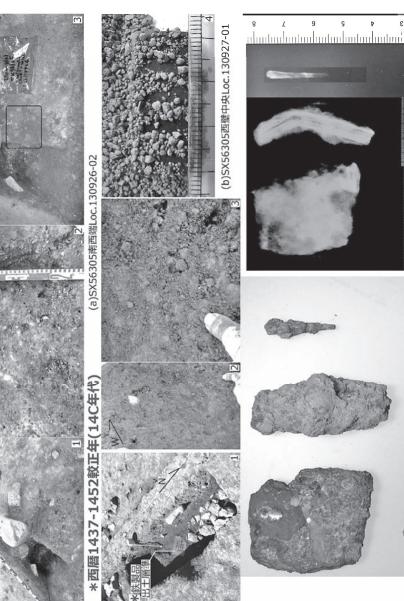
このたび、京都府教育委員会から中世城館関係遺跡の総合カタログ『京都府中世城館 跡調査報告書 - 山城編 - 』が出版されました。

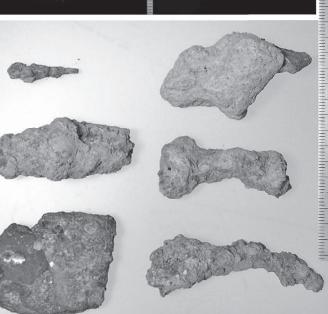
遺跡分布図と一覧表に示される城館跡約200地点を京都盆地北部の地形条件図にプロットして見ました。14世紀頃から近世初期に至るやかた人たちの活動痕跡の総覧にあたります。

遺跡調査がかかわる手回りの、人々のすがたのみえるスケールから盆地全域を見渡す尺度・規模まで、また、盆地形成の太古から今日の水利・河川文化時代に至るまで、地理屋は大小さまざまな時・空スケールで地域の歴史を描きあらわそうとします。この度のベースマップに、今後、やかたびと達の活動の様子や履歴を書きこんで、京都中世社会図説の端緒にしたいと思います。



◇~炉跡構築層切取試料の自然科学的分析~◇





■ 鉄製品細部・X線画像(SX56305)

◇かなもの使って館たてる~火処・火の始末痕発見~◇鍛造鉄製釘類(方形掘方SX56305、金属学的分析試料

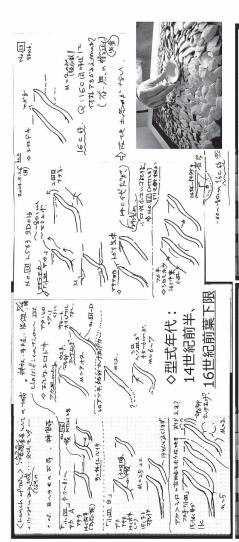
解釈断面図解(黄線層界,白粒偽磔

炉跡構築層切取試料

ト植野城堀埋め

・レントゲン画像類)・青銅製金具類(溝SD56302a(まか)

燒土塊(溝SD56302b)·鳴滝産仕上げ砥石(溝SD56302a)



2002/2014図解

型式比較 フィールドノ

日記出

堀の埋め立て層

もなるし層)

(上植野城:

やかたの台所の水がめ・酒がめ

時応5年(1342) 新

伊野(1988) 10cm

1350

祖子

tokoname & bizen 上植野城

> 中葉下限 16世紀前半~ ◇型式年代 五古 中 新 斯(5500) (580 AD この中からまはなから 五石子中

> > ~土師器大量消費の こわして捨てる

中世体験~令

◇食べて飲んで、

小雪二十明晚七五五九

遺構構築層)]

もならし層

(物集女城:

2.指(文) 宏元年(1444) 坊

1450



やがたのお台所拝見、 ふだん使いの食器たち すりに かた 雪擂客

期備前

御町祭む中松巻・第※ 13. KN/5E4F (1624) #

※中世上器研究会編(1995)拠 ── やかたの台所、もようがえの時代到来。常滑はおしまい、備前使いを始めます。 堀を埋め立てて、新しい生活も始まりました。 Se 10, MERISA (1610) SE

1600年

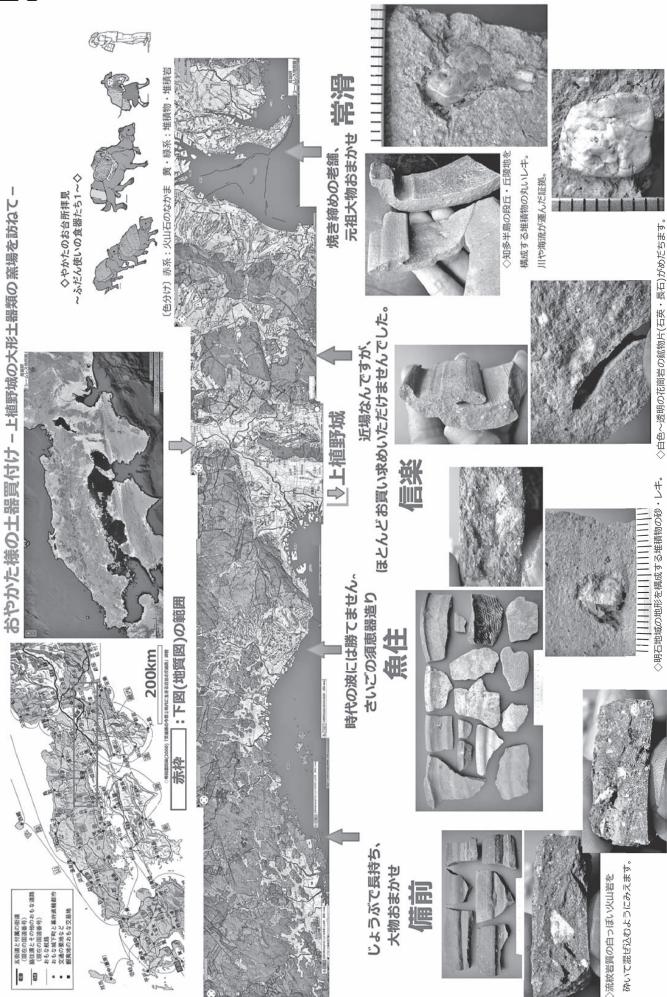
◇やかたのお台所拝見~ふだん使いの食器たち~◇

こま実験

0ネバネバをめざそう

番鸭

<u>≻</u>



※1000℃をこえる焼き温度では鉱物が溶けたり見えなくなってしまいます。そこで焼きが甘い、火のとおりのよくない部分をさがして練り土を観察します。 自然資源利用のかたち・しくみ・練り土(ペースト)に観る各窯場地域の地質条件-<u>⊠</u>

「慕帰絵詞』 (覚如1270-1351)にみる subsistence view "bokiekotoba"

食の景観

2014.5.29

上師白目

いただ

VIP僧侶御膳

黑瀬戸天目椀]

· 禁

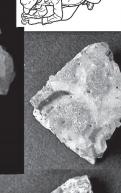
(施釉陶器瀬戸皿

白磁格目類~上部目)

廃締陶器摺鉢と

輸入磁器)

取手付片口 瓦質土器火鉢



(磁器青磁椀・白磁椀(中国製品))

<u>⊠</u>

(施釉陶器・供膳形態(白釉ベース、淡青・淡緑・濃赤色釉、象嵌状、朝鮮産か)

* 百瀬正恒氏ご教示

VIP僧侶

◇やかたのお茶の間拝見~寒い晩に暖とって、一杯やって~◇ ◇やかたのお台所拝見~ふだん使いの食器たち2~◇

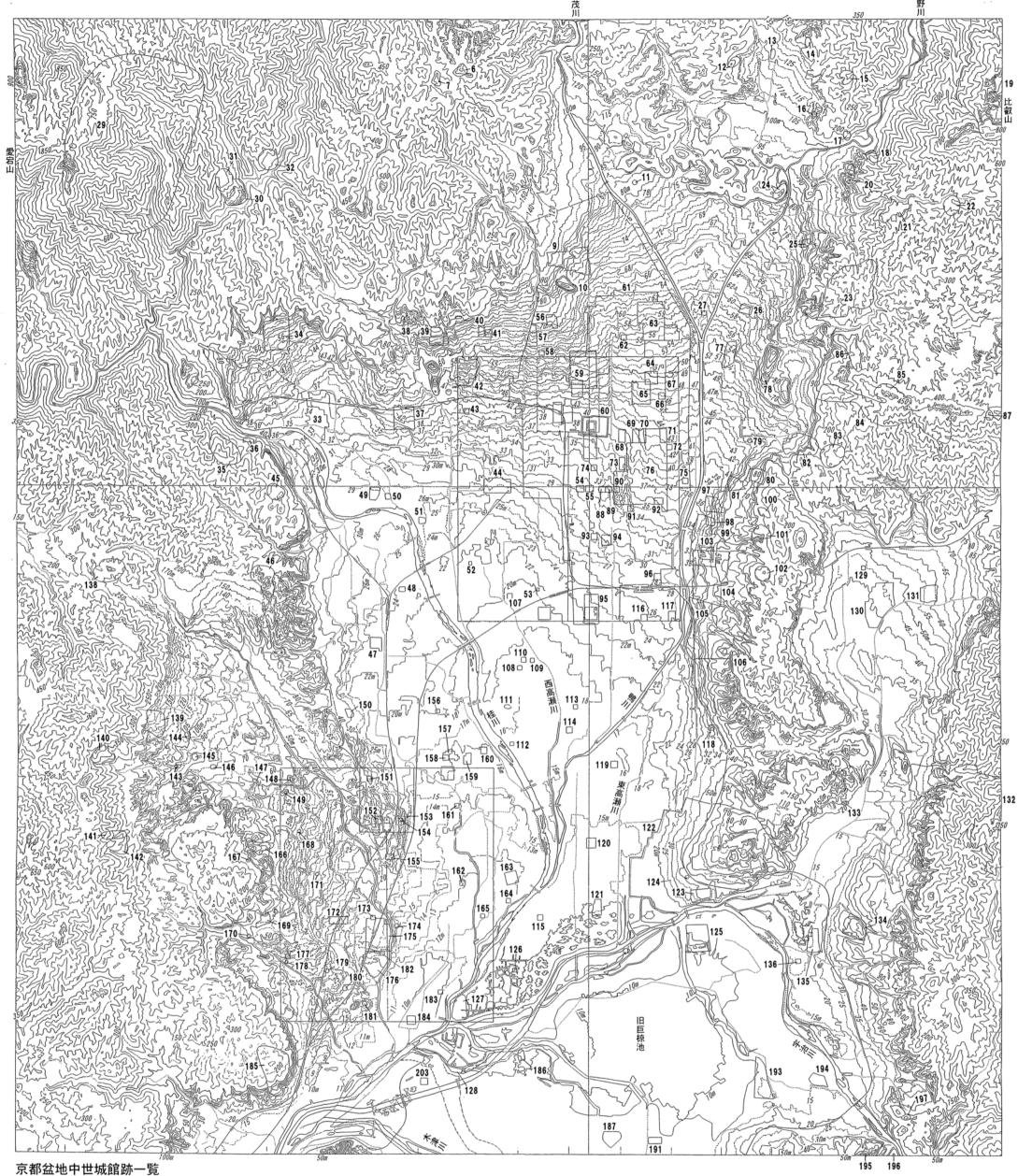
中却クシャング

まかな

[瓦質土器火鉢]



(土製品伏見人形狐・俵型)



【愛宕郡】 6 堂ノ庭(長坂) 城跡 7 鑓磨岩城跡 8 御土居跡 9 大徳寺旧境内 10 船岡山城跡 11 植物園北遺跡 (上賀茂社家町) 12 岩倉上蔵城跡 13 小倉山城跡 14 岩倉長谷城跡 15 岩倉花園城跡 16 三宅八幡城跡 17 八瀬城跡 18 御蔭山城跡 19 延暦寺境内 20 修学院雲母坂城跡 21 一乗寺山城跡 22 一乗寺延暦寺山 (一本杉西) 城跡 23 北白川 (瓜生山、勝軍地蔵山) 城跡 24 松ヶ崎城跡 25 渡辺館跡 26 田中構え跡 27 下鴨城跡 29 愛宕山遺跡 30 神護寺境内 31 高雄城跡 32 高山寺境内 33 嵯峨遺跡 34 大覚寺境内 35 嵐山城跡 36 蔵王神社城跡 37 広隆寺境内 38 妙光寺境内 39 仁和寺境内 40 等持院境内 41 真如寺境内 42 妙心寺境内 43 安井城跡 44 西院(小泉)城跡 45 松尾山寺跡 46 峰ケ堂城跡(法華山寺跡) 47 革嶋館跡 48 桂城跡 49 長福寺境内 50 梅津城跡 51 郡城跡 52 川勝寺城跡 53 梅小路城跡 54 本隆寺の構え跡 55 立本寺の構え跡 55 立本寺の構え跡 56 行東部寺境内 57 北野天満宮境内 58 北野右近馬場城跡 59 聚築第跡 60 二条城跡(史跡旧二条雕宮) 61 上京道跡(上京の構え跡) 62 本満寺の構え跡 63 相国寺境内 64 新在家構え跡 65 旧二条城跡 66 頂妙寺の構え跡 67 京都新城跡 68 妙顕寺城跡 69 妙覚寺城跡 70 二条殿御池城跡(二条御新造、二条殿) 71 等持寺跡 72 三条坊門殿跡 73 本能寺城跡 74 旧本能寺の構え跡 75 四条道場(金蓮寺)跡 76 下京遺跡(下京構え跡) 77 吉田泉殿町遺跡 78 神楽岡城跡 79 白河街区跡 80 知恩院境内 81 八坂神社境内 82 南禅寺境内 83 東岩倉山城跡 84 如意寺跡 85 如意ヶ嶽城跡 86 中尾城跡 87 灰山城跡 88 妙蓮寺の構え跡 99 本禅寺の構え跡 90 本禅寺の構え跡 91 だいうすの城跡 92 竜臥城跡 93 中堂寺城跡 94 本圀寺城跡 95 教王護国寺(東寺)境内 96 塩小路若山城跡 97 建仁寺境内 98 六波羅蛮寺境内 99 六波羅政庁跡 100 霊山城跡 101 阿弥陀ヶ峰城跡 102 清水寺境内 103 方広寺跡 104 今村城跡 105 法住寺殿跡 106 東福寺境内

【紀伊郡】 107 吉祥院城跡 108 吉祥院竹尻城跡 109 吉祥院政所城跡 110 吉祥院西ノ内城跡 111 石原城跡 112 嶋城跡 113 上鳥羽城跡 114 上鳥羽岩ノ本城跡 115 横大路城跡 116 城興寺城跡 117 九条河原城跡 118 寺本城跡 119 竹田城跡 120 芹川城跡 121 下三栖城跡 122 三淵氏伏見城跡 123 伏見城跡 124 指月城跡 125 向島城跡 126 富ノ森城跡 127 旧淀城跡 128 淀城跡

【字治郡】 129 四手井城跡 130 山科本願寺跡 131 山科本願寺南殿跡 132 醍醐寺境内 133 小栗栖城跡 134 松殿跡 135 西浦遺跡 136 岡屋城跡

【乙訓郡】 138 沓掛城跡 139 勝持寺旧境内 140 金蔵寺境内 141 三鈷寺境内 142 善峰寺境内 143 長峰城跡 144 大原野野田城跡 145 南春日町下西代遺跡 146 灰方城跡 147 上羽城跡 148 上里城跡 149 石見城跡 150 物集女城跡 151 寺戸城跡 152 鶏冠井興隆寺跡 153 御屋敷遺跡(鶏冠井城跡) 154 鶏冠井檀林跡 155 西小路遺跡(上植野城跡・秋田館跡) 156 上久世城跡 157 下久世構跡 158 下久世城跡 159 大藪城跡 160 築山城跡 161 東土川城跡 162 羽東師菱川城跡 163 久我東町遺跡 164 志水落合城跡 165 古川城跡 166 光明寺 167 観音寺(子守勝手神社) 168 井ノ内館跡 169 海印寺跡 170 海印寺城跡 171 今里城跡 172 開田城跡 173 馬場城跡 174 古市城跡 175 近世勝龍寺城跡 176 中世勝龍寺城跡 177 慈光院境内 178 下海印寺遺跡 179 友岡城跡 180 調子城跡 181 久貝城跡 182 神足城跡 183 水垂築山城跡 184 下津城跡 185 山崎城跡 187 市田城跡 191 安田環濠集落 193 小倉遺跡 194 槇島城跡 195 宇治東山山上遺跡(宇治城跡) 196 院御所山遺跡(慎ノ尾山城跡) 197 朝日山遺跡(朝日山城跡) 203 美豆城跡



公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や 埋蔵文化財セミナー、小さな展覧会などの催し物は、下記のホームページでもご案内しています。

http://www.kyotofu-maibun.or.jp

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒 6170002 向日市寺戸町南垣内 40番の3

Tel (075) 933-3877 (代表) Fax (075) 922-1189